

戸別受信機の配備により防災情報を確実に高齢者等に伝える (戸別受信機等未配備団体 (250市町村程度))

防災行政無線等の戸別受信機等が未配備の団体事業者：(250市町村程度)



防災行政無線の戸別受信機 (西海市)

防災行政無線の操作卓 (西海市)



対策名 : No.86 高齢者世帯等への確実な情報伝達に関する緊急対策

事業名 : 防災行政無線デジタル化整備事業

- ポイント**
- 市町村において防災行政無線等の戸別受信機等を配備
 - 避難勧告等の情報が届きにくい高齢者世帯等に確実に情報を伝達

事業の概要・実施状況

平成30年7月豪雨を踏まえ、防災行政無線等の戸別受信機が未配備の団体(250市町村程度)において、豪雨災害時に速やかに避難することが求められる地域を対象とし、避難勧告等の情報が届きにくい高齢者世帯等に確実に情報を伝えられるよう、市町村において戸別受信機等を配備しました。

【同様の対策の効果事例】

<長崎県西海市>

【地域の概要・課題】

西海市における自然災害は、梅雨前線に伴う豪雨による崖崩れや地すべり、山崩れ、河川の氾濫に起因する被害が多いことが特徴です。

過去の災害の事例として、昭和57年7月豪雨では、長崎県において記録的な豪雨となり、長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、降り始めからの総雨量572mmを記録し、西海市においても河川の氾濫など甚大な被害を受けました。

【事業の概要・実施状況】

平成22年から令和2年にかけて防災行政無線(同報系)(以下、「防災行政無線」という。)のデジタル化整備事業を行い、住民に対して防災行政無線の音声を確認するために、屋外拡声器のみでなく、屋内受信ができる戸別受信機を市内全世帯に対し配備しました。

【西海市の効果事例】

令和2年7月豪雨や令和2年台風第10号において、西海市では防災行政無線で避難情報等を発信しました。戸別受信機を配備したことにより、屋外拡声器を用いた防災行政無線からの音声十分に聞こえにくい屋内においても、戸別受信機を通じて住民に確実に災害情報を伝達することができました。